

【(2022年以降対応版) 必須研修内容一覧】

以下のプログラムで実施される研修を、CLOCMiP レベルⅢ認証申請で有効な必須研修として承認いたします。研修企画ご担当者様におかれましてはご確認いただきますようお願いいたします。

【目次】

妊産褥婦のフィジカルアセスメント：脳神経	2
妊産褥婦のフィジカルアセスメント：呼吸・循環	3
新生児のフィジカルアセスメント	4
臨床推論	5
臨床薬理（妊娠と薬）	6
臨床病態生理	7
分娩期の胎児心拍数陣痛図（CTG）	8
緊急時の対応	9
母体の感染	10
妊娠期の栄養	11
妊娠と糖尿病	12
授乳支援	13
後輩指導・助産師教育	14
医療安全と助産記録	15
災害時対応	16
助産師と倫理	17
意思決定支援	18
不妊・不育の悩みを持つ女性の支援	19
女性に対する暴力予防の支援	20
多様な性の支援	21

※必須研修「新生児蘇生法（NCPR）」「メンタルヘルス」「ウイメンズヘルスケア提供のための基盤能力」「助産師と助産政策」は、日本助産評価機構が指定する研修のみ有効です。これらのテーマで研修開催申請はできません。

部門		項目
共通基盤		妊産褥婦のフィジカルアセスメント：脳神経
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・妊産褥婦における中枢神経疾患のフィジカルアセスメントに必要な観察ポイントについて理解できる。 ・妊産褥婦の中枢神経疾患の逸脱状況の予測と対応について理解できる。 ・妊産褥婦に安全な医療を提供できる知識と技術を理解できる。 	
時間	90分（事前テスト5分、講義40分、演習40分、事後テスト5分） ※時間配分は目安です。適宜変更してください。	
方法	講義・演習	
学習内容		詳細
1. 妊産褥婦における中枢神経疾患への対応	1-1. 妊産褥婦における中枢神経疾患概論 1-2. 妊産褥婦における中枢神経疾患に関連したフィジカルアセスメントのポイントと実際 1-3. 中枢神経疾患の症状のアセスメントと対応 <ul style="list-style-type: none"> ・頭痛 ・片頭痛等 	
2. 具体的事例を通じた逸脱状況の予測と対応	2-1. 臨床推論を用いた事例紹介（脳出血） 2-2. 臨床推論を用いた逸脱状況の予測と対応	

部門		項目
共通基盤		妊産褥婦のフィジカルアセスメント：呼吸・循環
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・妊産褥婦の呼吸循環系における母体の生理的変化について理解できる。 ・妊産褥婦の呼吸循環系に関連した逸脱状況の予測と対応について理解できる。 ・妊産褥婦に安全な医療を提供できる知識と技術を理解できる。 	
時間	90分（事前テスト5分、講義40分、演習40分、事後テスト5分） ※時間配分は目安です。適宜変更してください。	
方法	講義・演習	
学習内容		詳細
1. 妊産褥婦の呼吸循環系における母体の生理的変化	1-1. 妊娠、分娩、産褥の経過に伴う呼吸系における母体の生理的変化 1-2. 妊娠、分娩、産褥の経過に伴う循環系における母体の生理的変化 1-3. 妊産褥婦の呼吸循環系のフィジカルアセスメントのポイントと実際 <ul style="list-style-type: none"> ・バイタルサイン ・血液所見 ・排泄等 	
2. 具体的事例を通じた逸脱状況の予測と対応	2-1. 臨床推論を用いた事例紹介（心疾患） 2-2. 臨床推論を用いた逸脱状況の予測と対応	

部門		項目
共通基盤		新生児のフィジカルアセスメント
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・新生児の適応、フィジカルアセスメントに必要な観察ポイントについて理解できる（説明できる）。 ・児の生理的な逸脱に気づく観察ポイントを理解できる（説明できる）。 ・新生児に安全なケアを提供できる技術を理解できる（説明できる）。 	
時間	90分	
方法	講義、演習（フィジカルアセスメント）	
学習内容		詳細
1. 新生児のフィジカルアセスメントの基礎知識	1-1. 新生児のフィジカルアセスメントのポイント （出生前情報・母体の飲酒や服薬などの影響因子・新生児仮死・出生体重と在胎期間） 1-2. 観察すべき項目とフィジカルアセスメントの実際 <ul style="list-style-type: none"> ・バイタルサイン ・児の行動分類（state） ・全身観察（皮膚・頭部・顔面・頸部・胸部・腹部・外陰部・四肢） ・原始反射 1-3. 注意すべき新生児の徴候と対応 <ul style="list-style-type: none"> ・リスク因子（早産・低出生体重児、低血糖、呼吸障害、黄疸、体温異常、体重減少、ビタミンK欠乏性出血症）とそのメカニズム ・対応 	
2. 具体的事例を通じた逸脱状況の予測と対応	2-1. 事例紹介（低血糖、母乳不足、脱水、高ビリルビン血症等） 2-2. 逸脱状況の予測と対応	

部門		項目
共通基盤		臨床推論
目的	臨床推論の基本を理解し、実際の事例を通して臨床推論のプロセスを体験することで、実際の臨床の場で臨床推論を活用することが可能となる。	
時間	90分（事前テスト：5分、講義1：20分、講義2：20分、講義3：20分、講義4：20分、事後テスト：5分） ※時間配分は目安です。適宜変更してください。	
方法	講義・演習（講義4）	
学習内容		詳細
1. 臨床推論総論	1-1. 症候診断のプロセス 1-2. 疾患論・症候論	
2. 検査データの見方	2-1. 基本的な検査データの見方 2-2. 検査データと臨床推論	
3. 妊娠期の臨床推論	3-1. 症候から考える体系的分析的アプローチ 3-2. 妊娠期のよくある症状と臨床推論	
4. 臨床推論各論	4. 事例の展開（演習） ・ 性器出血 ・ 腹痛	

部門		項目
共通基盤		臨床薬理（妊娠と薬）
目的	妊娠期、分娩期、産褥期における薬剤の影響について理解できる。	
時間	90分（事前テスト：5分、講義1：45分、講義2：35分、事後テスト：5分） ※時間配分は目安です。適宜変更してください。	
方法	講義	
学習内容		詳細
1. 妊娠・分娩と薬剤	1-1. 産婦人科診療ガイドライン産科編 2020 について 1-2. 妊娠中の薬剤投与の特徴と問題点（時期） ・薬剤の種類と胎盤透過性など 1-3. 胎児への影響と有益性・必要性の検討 ・時期、薬剤の種類 1-4. 子宮収縮薬と医療事故（再発防止委員会からの提言） 1-5. 陣痛誘発と陣痛促進時の子宮収縮薬投与の基礎知識 ・適応・条件・薬剤の種類と特徴	
2. 授乳と薬剤	2-1. 産婦人科診療ガイドライン産科編 2020 について 2-2. 授乳中の薬剤投与の特徴 ・児への影響 ・母乳への影響 2-3. 児への影響と有益性・必要性の検討	

部門		項目
共通基盤		臨床病態生理
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床でよく経験する産科領域の病態生理について理解できる。 ・胎児、妊娠、分娩等への影響および管理が理解できる。 	
時間	90分（事前テスト：5分、講義1：5分、講義2：20分、講義3：20分、講義4：20分、講義5：15分、事後テスト：5分） ※時間配分は目安です。適宜変更してください。	
方法	講義	
学習内容		詳細
1. 臨床病態生理とは	1. 臨床病態生理 とは	
2. 胎児発育不全（FGR）	2-1. 胎児発育不全の定義（均衡型、不均衡型） 2-2. 原因：母体側リスク因子、胎児因子 2-3. 胎児、妊娠、分娩等への影響および管理	
3. 妊娠高血圧症候群（HDP）	3-1. 妊娠高血圧症候群の定義 ・類似：HELLP症候群、急性妊娠脂肪肝など鑑別 3-2. 原因：母体側リスク因子、胎児因子 3-3. 胎児、妊娠、分娩等への影響および管理 ・常位胎盤早期剥離、羊水塞栓症等との関連	
4. 前置胎盤	4-1. 前置胎盤の定義 ・類似：常位胎盤早期剥離との鑑別 4-2. 原因：母体側リスク因子など 4-3. 胎児、妊娠、分娩等への影響および管理 ・癒着胎盤リスク、自己血輸血の準備なども	
5. 羊水過少・羊水過多	5-1. 羊水過少・羊水過多の定義 5-2. 原因：母体側リスク因子、胎児因子 5-3. 胎児、妊娠、分娩等への影響および管理	

部門		項目
マタニティケア能力		分娩期の胎児心拍数陣痛図（CTG）
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・胎児心拍数の変動メカニズムを理解できる。 ・CTG（胎児心拍数陣痛図）が示す波形の意味を理解できる。 ・低酸素状態の胎児に必要な対応が理解できる。 ・応用として脳性麻痺事例の波形から、発展的な学習を行うことができる。 	
時間	90分（事前テスト：5分、講義1：35分、講義2：25分、講義3：20分、事後テスト：5分） ※時間配分は目安です。適宜変更してください。	
方法	講義	
学習内容		詳細
1. 胎児心拍数の変動メカニズム	1-1. 胎児心拍数の変動のメカニズム <ul style="list-style-type: none"> ・波形が意味すること 1-2. 産婦人科診療ガイドライン産科編 2020 の確認 <ul style="list-style-type: none"> ・Answer に追加された事項について 1-3. 一過性変動の種類と原因、鑑別 1-4. 頻脈、徐脈、サイナソイダルパターンなどの原因	
2. 低酸素状態の胎児への対応	2-1. 基線細変動、心拍数基線、一過性徐脈の組み合わせに基づいたレベル分類 <ul style="list-style-type: none"> ・胎児健常性について 2-2. 影響を与える要因 2-3. 必要な対応	
3. 応用編：脳性麻痺事例から	3-1. 産科医療補償制度再発防止委員会 HP に事例があることの紹介 3-2. 脳性麻痺事例のCTGについて	

部門		項目
マタニティケア能力		緊急時の対応
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・母体の急変発生時の初期対応の原則について理解できる。 ・母体救命のために必要な事項を理解できる。 ・産科で遭遇する急変時の対応について理解できる。 	
時間	90分（事前テスト：5分、講義1：40分、講義2：40分あるいは演習40～60分、事後テスト：5分） ※時間配分は目安です。適宜変更してください。	
方法	講義	
学習内容		詳細
1. 母体急変時の初期対応の原則	1-1. 急変時の初期対応の原則 1-2. 急変時の感知 1-3. 母体急変とバイタルサイン・心肺蘇生 1-4. 急変に対する必要な知識（ショック、気道確保、意識レベル） 1-5. 急変対応に必要な連携（多職種連携、コミュニケーション、リーダーシップ等）	
2. 母体急変への対応の実際	2. 以下のいずれか複数の急変時の臨床症状の感知と病態、対応について、事例を展開する。 <ul style="list-style-type: none"> ・出血や疼痛（子宮収縮不全、常位胎盤早期剥離、子宮内反、血種） ・意識障害・痙攣（HELLP症候群） ・息苦しさ（肺塞栓症） ・不穏（アナフィラキシーショック） など 	

部門		項目
マタニティケア能力		母体の感染
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・母体の感染の要因について理解できる（説明できる）。 ・母体の感染が新生児に与えるリスクについて理解できる（説明できる）。 ・母体と胎児に安全な医療を提供できる知識と技術を理解できる（説明できる）。 	
時間	90分	
方法	講義	
学習内容		詳細
1. 子宮内感染の診断と治療について	1-1. 子宮内感染のリスク因子（絨毛膜羊膜炎・臍帯炎・前期破水・B群溶血性連鎖球菌(GBS)ほか) 1-2. 新生児に与える影響（早産・脳性麻痺）	
2. 妊娠中・産後の感染症	2-1. 妊婦の生理学的データの特徴（循環・呼吸） 2-2. 出産後の生理学的変化 2-3. 妊娠中および産後の敗血症の早期認知とそのマネジメント <ul style="list-style-type: none"> ・妊娠中および産後の敗血症 ・Surviving Sepsis Campaign Guideline (SSCG) について ・敗血症の管理（治療や観察項目） 2-4. 妊娠とA群溶血性連鎖球菌	
3. 母体感染と重度脳性麻痺と診断された事例～産科医療補償制度より	3. 重度脳性麻痺と診断された事例と子宮内感染とのかかわり <ul style="list-style-type: none"> ・重度脳性麻痺と診断された事例紹介 ・対応策としての提言 	

部門		項目
マタニティケア能力		妊娠期の栄養
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 妊産褥婦の食生活の現状を理解できる。 ・ 妊娠期から出産に向けた身体づくりの重要性について理解できる。 ・ 日本人の食事摂取基準 2020 について理解する。 ・ 食育の重要性を認識した保健指導やケアを理解できる。 ・ 対象が行動変容をおこす支援を理解できる。 ・ 継続評価をおこなう必要性が理解できる。 	
時間	90 分（事前テスト：5 分、講義 1：15 分、講義 2：15 分、講義 3：30 分、講義 4：20 分、事後テスト：5 分） ※時間配分は目安です。適宜変更してください。	
方法	講義＋演習（講義 4）	
学習内容		詳細
1. 食生活の現状	1-1. 現代社会における食生活の現状 <ul style="list-style-type: none"> ・ 化学物質などの問題、嗜好品について ・ 食生活（勤労妊婦、インスタント・加工食品） 1-2. 健康日本 21、健やか親子 21、エコチル等のデータ説明	
2. 妊娠から出産に向けた身体づくりの重要性	2-1. 妊娠期の身体的変化、分娩時に必要な心身の準備 2-2. 妊娠期の体重増加について 2-3. 不足しがちな栄養について 2-4. DoHAD 説について 2-5. 低出生体重児との関連性	
3. 妊娠から授乳期に必要な栄養と食事	3-1. 日本人の食事摂取基準 2020 について <ul style="list-style-type: none"> ・ 栄養素の復習 3-2. エネルギーとバランス、微量元素について 3-3. 過剰摂取、栄養補助食品について 3-4. 食育についての説明（望ましい食生活）	
4. 行動変容を促すために必要なケア評価～継続評価～	4-1. 行動変容を促すケア <ul style="list-style-type: none"> ・ 意思決定支援は、当該研修を参照とする 4-2. ケアの継続評価 4-3. 事例の展開 例) 勤労妊婦、バランスの悪い食生活など	

部門		項目
マタニティケア能力		妊娠と糖尿病
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠糖尿病(GDM)、妊娠中の明らかな糖尿病、並びに糖尿病(DM)合併妊婦の妊娠期・分娩期の管理と支援を理解できる。 ・妊娠糖尿病(GDM)既往妊婦の産後のフォローアップについて理解できる。 ・妊娠糖尿病(GDM)既往妊婦から出生した新生児のケアについて理解できる。 	
時間	90分（事前テスト：5分、講義1：20分、講義2：20分、講義3：20分、講義4：20分 事後テスト：5分） ※時間配分は目安です。適宜変更してください。	
方法	講義	
学習内容		詳細
1. 妊娠糖尿病(GDM)、妊娠中の明らかな糖尿病、並びに糖尿病(DM)合併妊婦の妊娠期・分娩期の管理		1-1. 妊娠期の糖代謝異常スクリーニングと診断のための検査 1-2. 妊娠糖尿病(GDM)、妊娠中の明らかな糖尿病、並びに糖尿病(DM)合併妊婦の妊娠期・分娩期の管理 1-3. 産婦人科診療ガイドライン（産科編）の活用 1-4. 妊娠各期の心理と支援
2. 妊娠糖尿病(GDM)既往妊婦の産後のフォローアップ		2-1. 2型糖尿病発症の発症リスクの予測と予防的介入 2-2. 産後の心理と支援
3. 妊娠糖尿病(GDM)既往妊婦から出生した新生児の病態とケア		3. 妊娠糖尿病(GDM)既往妊婦から出生した新生児の病態とケア (1項目) -1 巨大児、FGR -2 呼吸窮迫症候群 -3 生化学異常（低血糖、低カルシウム血症） -4 心奇形
4. 具体的事例：妊娠糖尿病(GDM)妊婦への食事療法支援		4-1. 事例紹介 4-2. 実際の血糖管理と食事療法支援

部門		項目
マタニティケア能力		授乳支援
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・母乳育児支援の動向を知り、母児と家族にとって最適な授乳支援に繋げることができる。 ・乳腺炎等のトラブル発生時の適切な対応と支援を知ることができる。 	
時間	90分（事前テスト：5分、講義1：30分、講義2：30分、講義3：20分、事後テスト：5分） ※時間配分は目安です。適宜変更してください。	
方法	講義	
学習内容		詳細
1. 授乳・離乳支援ガイド	1-1. 授乳・離乳支援ガイド 2019年版改定の概要について 1-2. 基本的な考え方 1-3. 改定の主なポイント	
2. 母乳育児成功のための10カ条（2018）	2-1. 母乳育児成功のための10カ条（2018）概要について 2-2. 母乳育児成功のための10カ条（2018）実践のためのポイント	
3. 授乳ハイリスクへの対応、乳腺炎重症化予防ケア	3-1. 乳腺炎の定義と診断 3-2. 乳腺炎フローチャート 3-3. 乳腺炎時の対応（授乳方法、薬物治療等） 3-4. 乳腺炎を発症した母親と子ども・家族へのケア	

部門		項目
専門的自律能力		後輩指導・助産師教育
目的	<p>助産師の育成において中心的な役割を担うために、成人学習や正統的周辺参加等の考え方とOJTの基本を理解する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門職としての学習の意義・必要性を理解する 2. 成人教育・成人学習における支援者の役割を理解する 3. 正統的周辺参加論をふまえた臨床における看護職育成のあり方を理解する 4. OJT(On the Job Training)における支援者の役割を理解する <p>[研修後に期待されること]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 所属組織・部署において、後輩指導・助産師教育の中心的役割を担い勉強会・研修や部署内OJTの計画を立案する。 	
時間	90分	
方法	講義	
学習内容	詳細	
1. 専門職としての学習の意義と必要性	<ol style="list-style-type: none"> 1-1. 専門職としての責務とキャリア 1-2. 倫理綱領における専門職としての責務 <ol style="list-style-type: none"> 1-2-1. ICM助産師の倫理綱領 1-2-2. 日本助産師会の倫理綱領 1-3. 助産師に求められる実践能力 <ol style="list-style-type: none"> 1-3-1. 助産師のコア・コンピテンシー 1-3-2. 助産実践に必須のコンピテンシー(ICM) 	
2. 成人教育・成人学習における支援者の役割	<ol style="list-style-type: none"> 2-1. 成人教育における対象となる学習者の特徴 2-2. 成人期の学習の特徴 2-3. 成人を対象とする教育の考え方 2-4. 成人学習の支援者の役割 <p>※コーチング・ファシリテーション等のスキルを含む</p> 	
3. 正統的周辺参加論をふまえた助産師育成の実際	<ol style="list-style-type: none"> 3-1. 新人助産師の育成の実際 	
3. OJTにおける支援者の役割	<ol style="list-style-type: none"> 4-1. OJTの基本的な考え方 4-2. OJTの実際と支援者の役割 	

部門		項目
専門的自律能力		医療安全と助産記録
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・医療安全の基本的な知識をとインシデント（アクシデント）発生時の対応、原因分析について理解することで、医療安全の意識をもち業務を行うことが可能となる。 ・法的根拠としての助産記録の在り方を理解し、適切な助産記録ができる。 ・ケアの質改善に活用する記録と助産記録について理解することで、臨床における助産記録が活用される。 	
時間	90分（事前テスト：5分、講義1：25分、講義2：25分、講義3：30分、事後テスト：5分） ※時間配分は目安です。適宜変更してください。	
方法	講義	
学習内容		詳細
1. 周産期における医療安全	1-1. 医療安全の基礎 1-2. 周産期医療における医療安全 1-3. 助産業務ガイドライン・産婦人科ガイドラインの活用	
2. 周産期における医療事故	2-1. 医療に起因する予期せぬ死産 2-2. 早期母子接触 2-3. 産科医療保障制度 2-4. 医療事故調査制度	
3. 助産記録と質改善	3-1. 助産記録と法的責任 3-2. 助産記録の目的・意義・必要性 3-3. 質改善に活用する助産記録のあり方	

部門		項目
専門的自律能力		災害時対応
目的	<p>災害時における周産期医療体制のあり方と所属施設の果たすべき役割を理解し、所属組織の分娩領域における災害時体制整備について考えることができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 災害時における周産期医療体制の現状を知る 2. 周産期医療機能に応じた医療機関の役割とネットワーク構築・強化の必要性を知る 3. 災害時対応に必要なマニュアルの構成を理解する 4. 所属組織の現状を想起し、課題や改善点等を考えることができる。 <p>[研修後に期待されること]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 所属組織(施設・部署等)における災害時対応の現状把握 2. 現状把握による問題点の明確化と課題の設定 3. 関係者との共有と課題解決計画の立案・実施・評価等 4. 所属部署内の防災意識の醸成を図る取り組みの実施 	
時間	90分(講義1:30分 講義2:25分 講義3:35分) ※時間配分は目安です。適宜変更してください。	
方法	講義・演習・実習等	
学習内容		詳細
1. 災害時における周産期医療体制の現状	<ol style="list-style-type: none"> 1-1. 災害時における周産期医療体制整備の変遷 1-2. 国と都道府県・市町村行政の役割 1-3. 災害時小児周産期リエゾンの活動 1-4. 広域災害救急医療情報システム(EMIS) 	
2. 周産期医療機能区分による役割の違いと連携の必要性	<ol style="list-style-type: none"> 2-1. 医療計画における周産期医療機能ごとの役割 2-2. 業務継続計画 2-3. 災害時の連携の必要性 2-4. 平時の備え(災害訓練等) 	
3. 災害対応マニュアルの作成・活用	<ol style="list-style-type: none"> 3-1. 日頃の備えに対するマニュアル作成と活用 3-2. 被災直後に必要なマニュアル作成と活用 3-3. 中・長期的な支援に必要なマニュアルの作成と活用 	

部門		項目
倫理的感応力		助産師と倫理
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・助産師の専門職としての倫理を理解し、倫理観をもってケアを提供する。 ・周産期における倫理的考察について理解し、事例の振り返りなどに活用する。 ・ケアリングの基本について理解し、女性のニーズに倫理的に応答することができる。 	
時間	90分（事前テスト：5分、講義1：15分、講義2：15分、講義3：20分、講義4：30分、事後テスト：5分） ※時間配分は目安です。適宜変更してください。	
方法	講義（講義4一部演習）	
学習内容		詳細
1. 倫理とは	1-1. 倫理の意味 1-2. 生命倫理の基本	
2. 助産師の倫理綱領	2-1. 専門職の倫理綱領 2-2. 助産師の倫理綱領（助産師の声明・ICM倫理綱領）	
3. 周産期における倫理的考察	3-1. 周産期における倫理的課題 3-2. 倫理的課題を考察するためのツール	
4. ケアリングとは	4-1. ケアリングの主要概念 4-2. ケアリングの事例の展開（演習）	

部門		項目
倫理的感能力		意思決定支援
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 女性中心の意思決定支援について理解し、実践できる。 ・ 意思決定支援に必要なコンピテンシーについて理解し、意思決定支援が実践できる。 	
時間	90分（事前テスト：5分、講義1：10分、講義2：10分、講義3：50分、講義4：10分、事後テスト：5分） ※時間配分は目安です。適宜変更してください。	
方法	講義・演習（講義3）	
学習内容		詳細
1. 意思決定支援とは	1-1. 意思決定支援とは 1-2. 意思決定支援が必要な背景 1-3. 女性中心の意思決定支援	
2. 助産師に求められる意思決定支援	2-1. マタニティケアにおける意思決定支援 2-2. ウィメンズヘルスケアにおける意思決定支援	
3. 意思決定支援の実際	3-1. ディシジョンエイド/意思決定ガイド 3-2. 意思決定支援演習(振り返りを含む) 例) 予期せぬ妊娠、HTLV-1A、出生前診断、無痛分娩、母乳等	
4. 意思決定支援に必要なコンピテンシー	4-1. 意思決定に必要なスキル 4-2. 意思決定に必要な情報提供	

部門		項目
ウィメンズヘルスケア能力		不妊・不育の悩みを持つ女性の支援
目的	不妊症、不育症の基本的知識（現状、診断、治療）を修得し、不妊・不育の悩みを持つ女性への支援が行える。	
時間	90分（事前テスト：5分、講義1：30分、講義2：20分、講義3：30分、事後テスト：5分） ※時間配分は目安です。適宜変更してください。	
方法	講義	
学習内容		詳細
1. 不妊症・不育症の基礎知識（生殖補助医療）	1-1. 生殖補助医療の動向 1-2. 不妊症の現状と動向 1-3. 不妊症の診断と治療 1-4. 不育症の現状と動向 1-5. 不育症の診断と治療	
2. 不妊・不育の悩みを持つ女性の理解	2-1. 不妊治療に伴う身体的、社会、経済的負担（保険診療を含む） 2-2. 不妊の悩みを持つ女性の心理 2-3. 不育の悩みを持つ女性の特徴（身体・心理・社会）	
3. 不妊・不育の悩みを持つ女性への支援	3-1. 不妊症治療を受ける（受けている）女性への支援の基本 3-2. 不妊症治療を受ける（受けている）女性への支援の実際事例 3-3. 不育症の既往、治療を受けている女性への支援の基本 3-4. 不育症の既往、治療を受けている女性への支援の実際事例	

部門		項目
ウィメンズヘルスケア能力		女性に対する暴力予防の支援
目的	女性に対する暴力の基礎知識を修得し、暴力を受けた女性の支援を行うことができる。	
時間	90分（事前テスト：5分、講義1：30分、講義2：20分、講義3：30分、事後テスト：5分） ※時間配分は目安です。適宜変更してください。	
方法	講義	
学習内容		詳細
1. ドメスティックバイオレンス（DV）の基礎知識	1-1. DVについて（DVとは何か、特徴） 1-2. DV被害の実態（配偶者から、交際相手から） 1-3. DVの早期発見（DVスクリーニング） 1-4. 配偶者からの暴力防止及び被害者の保護に関する法律（DV防止法）	
2. 暴力を受けた女性の理解	2-1. 暴力を受けた女性の心理的影響 2-2. 暴力を受けた女性の身体的影響 2-3. 暴力を受けた女性の社会的影響	
3. 暴力を受けた女性への支援	3-1. 初期対応と意思に沿った支援（二次被害の防止含む） 3-2. 予期せぬ妊娠への対応・支援（緊急避妊薬含む） 3-3. 暴力の減少・防止、女性の健康やQOL向上の介入と実際 認知行動療法、支持的カウンセリング、家庭訪問等 3-4. 社会資源の活用と実際、および連携 配偶者暴力支援センター、民間シェルター等	

部門		項目
ウィメンズヘルスケア能力		多様な性の支援
目的	多様な性の現状及び諸問題について理解できる。 多様な性に悩みを抱える対象へ専門職者としての役割を考えることができる。	
時間	90分（事前テスト：5分、講義1：30分、講義2：30分、講義3：20分、 事後テスト：5分） ※時間配分は目安です。適宜変更してください。	
方法	講義	
学習内容		詳細
1. 多様な性についての社会的背景と基礎知識	1-1. 多様な性の歴史的背景と社会的動向 1-2. セックス・セクシュアリティ・ジェンダーとは 1-3. 多様な性を示す言葉など（LGBTQ+、SOGIE など） 1-4. 性別不適合と医学・法的基盤など	
2. 多様な性を生きる対象の理解	2-1. 多様な性による身体的影響 2-2. 多様な性による社会的影響 2-3. 多様な性による心理的影響	
3. 多様な性を生きる対象への支援	3-1. 支援における原則 3-2. 相談および支援の実際（紹介） 例）レインボーフラッグ、支援団体や活動など	